

授業科目名	リプロダクティブ・ヘルス <i>Reproductive Health</i>		担当教員	永松 美雪	
開講年次	1年通年	セメスター	1	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	国の人口政策や経済問題などとも深くかかわるリプロダクティブ・ヘルスの課題について、先進国、途上国の現状を多角的に分析し、その対応について考察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルスの課題をめぐる背景と現状について理解できる 2. リプロダクティブ・ヘルスの課題に対する助産師の支援を考察できる 3. 健康教育について学び、リプロダクティブ・ヘルスに関する健康教育の指導および相談等の対応について考察できる 4. 受胎調節実施指導の資格取得の申請ができるようになる 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの定義、歴史的意義 2回 ミレニアム開発目標とリプロダクティブ・ヘルス 3回 リプロダクティブ・ヘルスと世界の問題：南北問題と飢餓、気候変動と女性問題 4回 リプロダクティブ・ヘルスと世界の問題：性別役割、有害な伝統的習慣、フィスチュラ 5回 リプロダクティブ・ヘルスの課題と支援：障害児、低体重児、新生児・乳幼児の虐待・死亡 6回 リプロダクティブ・ヘルスの課題と支援：不妊症、遺伝医療と遺伝子検査 7回 リプロダクティブ・ヘルスの課題と支援：危険な性行動、STD/HIV、望まない妊娠 8回 リプロダクティブ・ヘルスの課題と支援：ドメスティック・バイオレンス、性暴力、予防教育 9回 健康教育の概念と理論 10回 健康教育技法 11回 家族計画、受胎調節実地指導（家族計画の歴史、母体保護法） 12回 家族計画、受胎調節実地指導に関する健康教育の指導および相談の対応 13回 家族計画、受胎調節実地指導案の作成 14回 家族計画、受胎調節実地指導案の演習 15回 家族計画、受胎調節実地指導案の発表 				
学習方法	助産師にはリプロダクティブ・ヘルスの課題について国内外を問わず多角的に捉え、その対応について考え実践していく能力が求められます。講義は個人発表またはグループディスカッション形式をとります。そのため十分な予習・復習が必須となります。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメール（永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp）にてアポイントを取って下さい。				
テキスト	堀内成子 編集：助産診断・技術学Ⅰ，第5版．東京，医学書院，2013． 福井トシ子 編：助産師業務要覧 基礎編 第2版．東京，日本看護協会出版会，2012．				
参考文献	我部山キヨ子 武谷雄二編集：母子の基礎科学，第5版．東京，医学書院，2014． 我部山キヨ子 武谷雄二編集：母子の健康科学，第5版．東京，医学書院，2016． 武谷雄二：エストロゲンと女性のヘルスケア：産婦人科学．東京，メジカルビュー社，2015． 日本女性医学学会 編：女性医学ガイドブック：思春期・性成熟期 編：東京，金原出版，2016． 苛原稔編：不妊症・不育症 改訂3版(インフォームドコンセントのための図説シリーズ)．医薬ジャーナル社，2016． 柴原浩章，森本義晴 著：図説よくわかる臨床不妊症学：一般不妊治療，第3版．東京，中外医学社，2016．				
評価方法	授業参加度（30%）、プレゼンテーション（40%）、課題レポート（30%）				